

科目名	在宅看護総論					
単位	1	時間数	15	対象学年	3	
担当講師	佐古田 専美					
ねらい	地域での保健・医療・福祉活動の全体像を把握するとともに、在宅看護の目的・役割を理解する。					
到達目標	1. 在宅看護の目的、役割と機能を理解し問題解決能力判断能力を養う。					
準備学習	<予習・復習>毎回3~4時間の予習・復習が必要となります。(計30時間)					
授業計画						
担当	回数	内容			方法	
佐古田	1	1. 在宅看護の概念 地域療養を支える看護 在宅ケアと在宅看護			日本の在宅看護の歴史と現状 在宅看護の倫理と基本理念	講義
	2	2. 在宅療養者と家族の支援 在宅療養が必要とする人たち 在宅療養者への看護活動 家族の介護負担とその軽減			在宅療養の成立条件 在宅看護と家族	講義
	3	3. 在宅療養を支える看護 訪問看護の特徴 訪問看護の実際 在宅ケアにおける感染症			在宅ケアを支える訪問看護ステーション 訪問看護記録	講義
	4	4. 在宅ケアの連携とマネジメント 地域包括的ケアシステムと在宅ケア 関係職種との連携			ケアマネジメントと看護 在宅ケアシステムと実際	講義
	5	5. 在宅ケアを支える制度と社会資源 高齢者を支える制度と社会資源 障害者・難病療養患者・子供を支える制度と社会資源 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源			介護保険保健制度について	講義
	6	6. 事例検討				グループワーク
	7	7. 在宅での療養生活 在宅ターミナルの実際			事例紹介	講義
	8	8. まとめ [45分間]				講義
評価方法	筆記試験 ※8回目講義終了後に筆記試験があります。					
テキスト	(1) 地域療養を支えるケア メディカ出版					

科目名	在宅看護技術					
単位	2	時間数	60	対象学年	3	
担当講師	浮田 秀子					
ねらい	基礎看護技術で学んだ技術を活用し、在宅看護を展開するための必要な技術を修得する。					
到達目標	1. 在宅における基本的な援助技術を実施するための知識を習得できる。 2. 医療的ケアを必要とする療養者・家族へのトラブル・合併症予防のための提案書を作成できる。 3. 事例療養者・家族に対しての看護の方向性を記述できる。					
準備学習	<予習・復習> 各回1時間 計30時間 教科書での要点確認 事例患者に対する疾患・治療・看護・活用できる社会資源等の事前学習 小テスト(計6回)の復習、医療的ケアの事前学習(指定用紙あり)・復習					
授業計画						
担当	回数	内容	方法	回数	内容	方法
浮田	1	ガイダンス 在宅看護とは 家族看護とは 訪問時のマナー	講義	16	良肢位の保持と褥瘡予防 ⑦ 褥瘡ケア	講義 小テスト④
	2	事例1 認知症の療養者 地域包括ケアシステム	講義 小テスト①	17	清潔のアセスメントと援助 在宅での工夫	講義 小テスト⑤
	3	事例2 フレイルの状態にある 療養者 基本的な援助技術 フィジカルアセスメント	講義	18	清潔援助の実施 洗髪、手浴	実技
	4	基本的な援助技術 生活ケアの援助技術	講義 小テスト②	19	清潔援助の実施 洗髪、手浴	実技
	5	医療的ケアの援助技術	講義 小テスト③	20	移動のアセスメントと援助	講義 小テスト⑥
	6	医療的ケアを必要とする療養 者・家族へのトラブル・合併 症予防 *テーマを選び、グループ ワークを行う。 事例3 パーキンソン病 ストーマ造設の療養者 ① 在宅経管栄養法 ② 在宅中心静脈栄養法 ③ 膀胱内留置カテーテル ④ ストーマケア 事例4 ALSの療養者 ⑤ 在宅酸素療法 ⑥ 在宅人工呼吸療法	演習 (グループ)	21	ALSの療養者 看護過程の展開	演習 (個人)
	7			22		
	8			23		
	9			24		
	10			25		
	11			26		
	12			27		
	13	トラブル・合併症予防の提案 *テーマ毎に、グループ 発表を行う。	演習 ロールプ レイ	28	終末期にある療養者の家族 への支援	
	14			29		
	15			30		
評価方法	筆記試験 50% 内容: 事例療養者・家族に関する学習、小テスト、医療的ケア事前学習の範囲 提案書 30% 基準: ルーブリック参照 ※ 第30回の授業終了後に16時20分提出 看護過程記録 20% 基準: 事例に沿っての整理 ※ 第26回の授業終了後に16時20分提出					
テキスト	(1) 地域療養を支えるケア メディカ出版 (2) よくわかる在宅看護 学研					

科目名	在宅看護援助論				
単位	1	時間数	15	対象学年	3
担当講師	高垣 優子				
ねらい	在宅看護に必要なケアマネジメント能力の必要性を理解し、看護過程に必要な能力を習得する。				
到達目標	1. 在宅における看護の実際について理解できる。 2. 看護過程・アセスメントについて理解できる。				
準備学習	<予習・復習> 毎回3~4時間の予習・復習が必要となります。 教科書を読んで授業に臨んでください。				
授業計画					
担当	回数	内容			方法
高垣	1	訪問看護の制度・現状について			講義
	2	訪問看護の実際 ・在宅に必要な技法 ・DVDによる訪問看護の実際を知る			講義 DVD視聴
	3	訪問看護の記録 ・DVDによる精神訪問看護の実際を知る ・看護記録			講義 DVD視聴
	4	訪問看護過程の実際 ・事例から在宅の状況・アセスメントを学ぶ（排便困難事例など）			演習
	5	訪問看護過程の実際 ・事例からプランの立案について学ぶ（糖尿病患者事例など）			演習
	6	訪問看護過程の実際 ・事例からプランの立案について学ぶ（ストーマ管理事例など）			演習
	7	訪問看護の実際 在宅ターミナルの事例から学ぶ			演習
	8	ディベート「在宅看護と施設看護について」 まとめ			ディベート
評価方法	筆記試験、出席状況など総合して行う。 筆記試験（45分）終了後に8回目の授業（45分）を行います。				
テキスト	(1) 地域療養を支えるケア メディカ出版				

科目名	看護管理				
単位	2	時間数	30	対象学年	3
担当講師	柿本 文重				
ねらい	チーム医療及び他職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップを理解すること、看護をマネジメントできる基礎的能力を身につける。				
到達目標	チーム医療・看護ケアにおける看護師としての調整と、リーダーシップおよびマネジメントができる能力を養う。				
準備学習	<予習・復習> 毎回1時間の予習・復習が必要となります。(計15時間)				
授業計画					
担当	回数	内容			方法
柿本	1	1) 看護とマネジメント ①看護管理学とは ②マネジメントとは ③看護におけるマネジメント			講義
	2	2) 看護ケアのマネジメント ①ケアのマネジメントと看護職の機能 ②患者の権利の尊重			講義
	3	2) 看護ケアのマネジメント ③安全管理 ④チーム医療			講義
	4	2) 看護ケアのマネジメント ⑤看護業務の実践			講義
	5	3) 看護職のキャリアマネジメント ①キャリア形成 ②タイムマネジメント ③ストレスマネジメント			講義
	6	4) 看護サービスのマネジメント ①看護サービスのマネジメント ②組織目的達成のマネジメント			講義
	7	4) 看護サービスのマネジメント ③看護サービス提供のしくみづくり			講義
	8	4) 看護サービスのマネジメント ④人材のマネジメント			講義
	9	4) 看護サービスのマネジメント ⑤施設・設備環境のマネジメント			講義
	10	4) 看護サービスのマネジメント ⑥物品のマネジメント			講義
	11	4) 看護サービスのマネジメント ⑦組織におけるリスクマネジメント			講義
	12	5) マネジメントに必要な知識と技術 ①マネジメントとは ②組織とマネジメント			講義
	13	5) マネジメントに必要な知識と技術 ③組織の調整			講義
	14	6) 看護を取り巻く諸制度 ①看護の定義 ②看護職			講義
	15	6) 看護を取り巻く諸制度 ③医療制度			講義
評価方法	筆記試験				
テキスト	看護の統合と実践1 看護管理		医学書院		
	参考) 看護学概論		医学書院		

科目名	人々の生活と看護								
単位	2	時間数	60	対象学年	3				
担当講師	原 久恵 ※実務者経験あり 土井 恵子 ※実務経験あり 浮田 秀子								
ねらい	1. 臨床実践で起こりやすい医療事故から医療安全の基本的知識について理解する。 2. 災害看護の災害直後から支援できる看護の基本的知識について理解する。 3. 国際社会において、広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考えることができる。								
到達目標	1. 医療安全の基本的知識について理解することができる。 2. 災害看護の実際を理解し、災害直後から支援できる看護の基本的知識について理解することができる。 3. 国際社会において、広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考えることができる。								
準備学習	<予習・復習> 授業時間外の自己学習が必要です。 計30時間 教科書での要点確認を行いましょ。講義前後でのレポートが必要な授業があります。								
授業計画									
担当	回	内容	方法		回数	内容	方法		
原	1	医療安全を学ぶ大切さ	講義	土井	16	災害サイクルに応じた看護 (回復期・慢性期)	講義		
	2	事故防止の考え方①	講義		17	防災訓練	演習		
	3	事故防止の考え方②	講義		18	災害時要配慮者別看護	講義		
	4	エラーマネジメント ヒューマンエラーの原因と事故防止	講義		19	災害時要配慮者別看護	講義		
	5	エラーマネジメント ヒヤリ・ハット事例の報告・傾向と対策	講義		20	災害時机上シミュレーション	演習		
	テキスト①	6	エラーマネジメント 事故分析手法 医療事故対策	講義	浮田	21	国際看護とは 看護の対象は人間	講義	
		7	組織マネジメント 組織の安全管理の仕組み	講義		22	異文化理解と多様性	講義	
		8	医療安全演習～日常生活援助で起こりやすい事例より考える～	講義		23	世界の健康問題と現状 事例検討	グループ学習	
		9	医療安全演習～ポスター作成 安全を守るために～	講義		24	諸外国の健康に対する考え方と健康行動		
		10	看護学生としての事故防止	講義		25			
土井		11	災害看護の基礎知識	講義		テキスト②	26	事例検討 発表	
		12	災害看護とは	講義			27		
		13	災害サイクルに応じた看護 (超急性期・急性期)	講義			28	日本の国際協力	講義
		14	災害サイクルに応じた看護 (超急性期・急性期)	講義			29	日本の中で国際的視点を持つとは	講義
		15	災害サイクルに応じた看護 (急性期・回復期)	講義			30	まとめ	講義
評価方法	1. 医療安全 科目試験 35点 2. 災害看護 科目試験 26点 レポート4点 3. 国際看護 科目試験 30点 レポート5点								
テキスト	① 川村 治子：系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔2〕 医療安全 医学書院 ② 看護の統合と実際〔3〕 災害看護学・国際看護学 医学書院								